

10月27日、この日は私たち夫婦の結婚記念日です。多くの皆様に祝福され、結婚式を挙げてから早くも一年が経ちました。振り返ると、結婚、選挙、妻の出産という怒涛のような一年でした。慌ただしい毎日ですが「家族」の大黒柱となった今、改めて家族について考えてみました。

Family(家族)の語源はfather and mother I love youという説もあるそうです。真意は別としても、いかにも家族を大切に思っている素直な考えではないでしょうか。私は日本の一般的な家庭に生まれ育ち、両親の深い愛情のもと育てられました。かつて日本の家庭では子供と親、そして祖父母が同居する三世帯家族が一般的でした。複数の世帯が同居することにより、子供達も幅広い年代と接し、両親が共働きであっても、誰かが家において子供の面倒をみたり、また、ご近所付き合いも盛んで、「子供たちは地域で育てる」ということが自然とできていました。

しかし、戦後徐々に「核家族化」が進み、世帯の6割以上が核家族世帯となっている現在では、家族の形態が変化することで家庭での教育が十分に行き届かず、昔は当たり前

のように教えられていた「感謝」「思いやり」「あいさつ」などの人として大切なことを、家庭で教える機会が少なくなっているのではないのでしょうか。地域に目を向けると、最近では「地域との繋がりが希薄になっている」という言葉をよく耳にします。そのことは自治会の役員をしている私も身をもって感じています。私個人は、その原因がこの「核家族化」と「子供たちへの教育の変化」にあると思います。当たり前のことを当たり前にできる人間になる。これは簡単なようで非常に難しいことです。子供達に教えるように、私たち大人も「あいさつ」はしっかりできていますか。「感謝」をしていますか。議員として、社会人として、何より一人の親として当たり前のことを当たり前にできる人間にならなければといつも考えます。

「令和」という元号にある「和」という言葉は、私の最も好きな言葉のひとつです。和を以て貴しとなす。私自身、家族をもって改めて日本の伝統的文化である「和」について思い出すときがきたように感じます。



9月定例県議会において、人生初の一般質問に臨みました。

多くの皆様の支えがあってこの壇上に立つことができました。質問では「熊本グランドデザインと人口減少社会への対応策」等を中心に質問させていただきました。今回はその内容を中心にお届け致します。

南部準平後援会が発足しました

令和元年10月12日、地元後援会の発足式が行われました。式では来賓の前川県連会長をはじめ、石坂千歳後援会長など多くの地元の皆様にお集まり頂き、無事発足することができました。地域の声を県政に反映するため全力で皆様の声に耳を傾けて参ります。後援会への入会については下記の事務所にご一報頂ければ幸いです。



南部準平後援会会員募集 詳しくは南部しゅんぺい事務所 096-221-6182 までお問合せください。

今年も12月を迎え、令和元年も終わろうとしています。私自身議員となって半年以上が経過しましたが皆様の支えのお陰で精力的な議員活動を行うことができています。2回の定例議事を終えましたが、まだまだ覚えること、勉強することが山ほどあり、議会活動や県の施策など日々勉強する毎日です。

第2回熊本県定例議会 一般質問項目

熊本のグランドデザインと人口減少社会への対応策

- 1 熊本市中心市街地グランドデザイン2050
- 2 少子化対策
- 3 若者の県外流出防止
- 4 「関係人口」から「定住人口」へつなげる取り組み
- 5 県スポーツ施設の老朽化対策
- 6 デジタル化の施策

※議会質問と答弁の詳細内容は内面をご覧ください。

6月、9月定例県議会について

5、6月の議会では所属する委員会(常任委員会：経済環境委員会 特別委員会：高速交通ネットワーク推進特別委員会)が決まり、この秋には各地へ視察に行かせていただきました。

9月議会では一般質問の機会を頂き、選挙公約で掲げた「グランドデザイン2050」を中心に質問(右記の項目)させていただきました。

県全体としては今年の大イベントである「ラグビーW杯」が無事大成功に終わり、現在このレポートを作成している今、まさに女子ハンドボール世界選手権が行われています。

私も一県民として現場で観戦し世界トップレベルのスピードとパワー、そして観客の盛り上がりをも感じました。反省する点も多くありますが、熊本県への経済効果もさることながら、これを通して「熊本の復興」を海外にも十分アピールできたのではないのでしょうか。

視察活動について

10月には四国、北陸、関西へ球場などへ意見交換もかねて視察に行ってきました。

今回の目的は「野球場建設の具体的な方法」と「どうやって運動施設を街づくりに生かすか」です。詳細は後述しますが、熊本の発展に運動施設をどう活用すべきなのか、今後具体案を交えて皆様と一緒に考えていきたいと思っています。



県庁にて支援者の皆様と



自民党青年部全国一斉街頭行動 (6月 熊本市西区にて)



県議会議員クルーズ拠点整備事業視察 (6月 八代港ジャケット据付工事)



地元校区敬老会にて (9月 火の国ハイツ)



地域ソフトボール大会に参加 (11月 運動公園にて)

プロフィール

南部 準平 熊本市出身 34歳 1985年(昭和60年)1月20日生まれ (なんぶしゅんぺい)

- 【経歴】
- 平成3年 熊本さくら幼稚園卒園
 - 平成9年 熊本市立託麻北小学校卒業/野球部主将
 - 平成12年 熊本大学附属中学校卒業/野球部主将
 - 平成15年 熊本県立済々黌高等学校卒業/野球部
 - 平成20年 川崎医療福祉大学理学療法科卒業
 - 平成29年 熊本機能病院退職
 - 平成29年 株式会社 Smart Growth 設立 (人材育成コンサルタント)
 - 令和元年 熊本県議会議員 初当選



自宅にて(生後6か月)



小学校の運動会(小学2年)



野球少年時代(小学6年)



高校野球部メンバーと(高校3年)



理学療法士時代



春の県大会決勝にて



- 【資格】理学療法士・ケアマネジャー
 【趣味】野球・ゴルフ・マラソン・音楽鑑賞・読書
 【家族】ピアニストの妻 長女
 【座右の銘】全力投球

南部しゅんぺい事務所 Tel/Fax 096-221-6182

〒861-8010 熊本市東区上南部1丁目2-40 ☎ nanbu@smartgrowth.co.jp http://nanbu-shunpei.jp/



同期県議と新任議員研修大会に参加(10月・東京)



新潟・富山 運動施設等視察(10月・新潟)



自民党県議団の関西視察(10月・奈良)

1 熊本市中心市街地ランドデザイン2050

質問 「熊本市中心市街地ランドデザイン2050—世界に拓く城下町都市くまもと」(以下GD2050と表記)では、2050年を目標とする中心市街地のまちづくりの長期ビジョンとその実現に向けた主要施策などが提案されている。この発表を受け、昨年8月に県・熊本市・熊本大学・商工団体等で構成される「くまもと都市戦略会議」が開催され、10年間に取り組む10のプロジェクトが選定されたが、この実現に向け産学官が連携し取り組みが進められており、大いに期待している。また、熊本市中心市街地が進展することで、県全体にも波及効果をもたらすものと考えられる。そこで、

- 1 GD2050について県としてどのように関わっていくのか。
2 GD2050の中心的な役割を担うと考えられる熊本市へどのような期待を持っているのか 知事に尋ねる。

答弁(知事) 1 県では次の3点を重点的に、かつ主体的に注力していく。1点目、空港アクセス鉄道の開業を、2023年春の阿蘇くまもと空港新ターミナルビル完成にできるだけ近づけるよう時間的緊迫性を持ってこのプロジェクトを進める。

2点目、国・県・熊本市が連携し熊本市圏を環状する東バイパスのみならず、市中心部と九州縦貫自動車道を結ぶ国道3号など主要な都市内道路について高架化を初め幅広く検討し、さらに、中九州横断道路の熊本一大津間の早期完成に向け、取り組みを加速化していく。

3点目、城下町再生に向けた民間の取り組みを県民の叡智を結集するとともに、県の文化財復興基金などもフル活用し、熊本市とも連携しながら支援していく。

2 熊本市には、県全体を力強く牽引するエンジンとしての役割を果たして頂くことを期待している。そして、県としては先に述べた3つの重点的取り組みを通じ、熊本市圏の発展を、県全体、さらには九州全体の発展につなげて参る。



<南部> アクセス鉄道に関しては、運動公園周辺にも駅ができる予定で地元としても大いに期待感が高まっている。ぜひ早期実現に向けて取り組んで頂きたい。

都市圏交通に関しても、長年の県民の願いである東バイパスと3号線の渋滞解消のため熊本市と連携し早急に検討、事業化を実現して頂きたい。また歴史的に行政・教育の中心として九州一輝いていたこの地を、熊本市のだけの発展に終わらず、長期的な視野で九州の発展のため、人口減少社会という大きな壁に真正面から挑んで頂きたい。

2 少子化対策

- 1 安心して子供を産み育てられる環境づくり
2 保育士の人材確保

質問 1 2000年以降、共働き世帯が50%を超え、2018年には67%となった。平成30年度版熊本県男女共同参画年次報告書では、本県の共働き世帯の家事、育児、介護に従事する時間は、一日あたり平均で夫32分に対し、妻4時間24分と大きな差がある。

男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる社会が実現され、女性に偏っている家事、育児、介護の負担が軽減されれば、女性は不本意な離職も防げることから、既に少子化の影響が顕在化してきているさまざまな業界における人手不足の歯止めにもつながり、さらに、世帯所得の低下も防げることから、第2子以降の出産意欲にもつながるのではないかと。若い世代の夫婦にとって安心して子供を産み育てられる環境づくりのため、より実効性を上げていくために必要な取り組みについて健康福祉部長に尋ねる。

質問 2 本年10月から実施される幼児教育・保育の無償化により、子供を保育所等に預ける世帯が増加することが予想される。また、保育所入所率は増加傾向にあり、特に、1~2歳の低年齢の入所率が増加しているが、保育所の施設基準により低年齢児になるほど保育士の必要人数が多くなる。このような状況を踏まえ、保育士不足が進むのではないかと懸念される。そこで、今後加速すると見込まれる保育士不足について、県の対策を健康福祉部長に尋ねる。

答弁(健康福祉部長) 1 県では、男女がともに自立し支え合う多様性に富んだ活力ある社会の実現を目指し、男女共同参画社会実現のための意識、社会基盤の改革に取り組んでいる。また、企業の経営者等が社員の仕事と生活の充実を応援する「よかボス」の登録企業が本年9月時点で350を超えるなど、その動きは着実に広がっている。(後略)

2 国や市町村、関係団体と連携し、新規保育士の確保、現任保育士の離職防止、離職した保育士の再就職支援の3つの観点から保育士確保に取り組んでいる。今年度から、県外の保育士養成施設に対する就職説明会の開催や就職準備金の貸付要件緩和など、県外から人材を呼び込むための新たな取り組みを始めた。今後とも、保育の質を確保しながら、保育士の人材確保に取り組んで参る。

<南部> 「よかボス」の取り組みは、経営者や上司の意識を高めるためには非常に効果的な対策だと思われるが、「男性育児休暇の取得促進」や「在宅ワークの奨励」など、多様性のある働き方を推奨する施策を実施頂きたい。保育士不足への対応について、新規保育士の確保や離職防止は重要だが、特に日本全国で70万人以上いると言われている「潜在保育士」の掘り起こしを積極的に行って頂きたい。今後は、少子化の根本的な原因である子供の教育費の問題や、晩婚化、未婚率の高さ等への対策など、健康福祉部だけではなく企画振興部や商工観光労働部などとの部署間連携をさらに強め包括的な施策の実施を願う。

3 若者の県外流出防止

質問 本県の人口流出を食い止めるためには、若年層の地元定着を促す必要がある。県は、若者の県内就職と定着を促進するために取り組んでこられたが、県内就職率はそれほど高まっているとは言えない。これまでの取り組みを検証し、課題を整理すべきではないか。また、昨年度に創設された若者の奨学金返還サポート制度は、県内就職の後押しになると思う。プライト企業や奨学金返還サポート制度など、若者の流出防止のための取り組みや現状について商工観光労働部長に尋ねる。

答弁(商工観光労働部長) プライト企業では、表彰制度の創設や審査項目の充実を図るなど、県内企業のさらなる働きやすさの向上につながるよう継続して制度の磨き上げを行う。奨学金返還サポート制度は、本県出身の首都圏などの学生や保護者への周知を強化。加えて、幅広い業界へ丁寧な制度周知を行い、参加企業の拡大にも注力していく。今年度からは、インターンシップに取り組む県内企業への補助や社員寮整備への支援制度もスタートさせるなど、より一層取り組んで参る。



<南部> プライト企業や奨学金返還サポート制度がしっかりと学生や保護者に届き、県民全体へ浸透させるためのブランディング戦略を検討して頂きたい。また、都道府県の幸福度ランキングが3年連続1位の福井県ではインターンシップ実施率が全国1位で、高校生や大学生のインターンシップにとどまらず小中学校の段階から地元企業が「出前授業」を行うなど、子供たちが早くから地元企業に触れ合い、興味を持てるようにしている。このように、優秀な人材を熊本に残すため、学生・学校・家庭・地元企業・行政が早くから連携し、学生の個性を踏まえ適材適所に配置するきめ細かな就職支援をすることが必要だ。他県の事例も参考に多面的な視野で対策を講じて頂きたい。

4 「関係人口」から「定住人口」へつなげる取り組み

質問(前略) 1 県の関係人口の創出、拡大の取り組みと
2 今後関係人口をどう定住人口につなげていくのか、企画振興部長に尋ねる。

答弁(企画振興部長) 1 「熊本コネクションプロジェクト」や「ふるさとワーキングホリデー」等を実施し、若い世代を初め多くの方に本県への関心を高めていただく取り組みを進めている。2 今年度から、移住体験ツアーや移住・就業セミナー等の情報をSNS等で発信。また、ワンストップ相談窓口を東京に加え大阪にも設置。さらに、東京からの移住を促進するため、国が全国的に取り組む移住支援事業等の取り組みも強化する予定。

<南部> 関係人口を定住人口につなげる取り組みについては、きっかけづくりである入口戦略が目玉だが、都市圏の相談窓口を拡充するなど、フォロワー体制を強化し「熊本に帰ってきたい」と思っている方の背中を押すような取り組みを強化して頂きたい。そして「関係人口拡大」という考えが生まれた本質は、「地方の担い手をどう確保していくか」ということであり、各市町村と連携しながら、成功事例を市町村で横展開していく等、縦割りではない効果的な施策を今後期待している。

熊本県の野球場施設について

藤崎台県営野球場は、来年令和2年に築60年を迎えます。私も高校球児として熊本野球人の聖地をめざし、汗を流し流した思い出深い球場です。しかし、老朽化、地震の問題もあり野球場としての施設の維持に限界が来ています。

今回は10月に視察に行ってきた新潟の球場との比較をご紹介します。新しい球場の必要性を訴えて行きたいと考えます。

めざすは「熊本ボールパーク!!!」

- 1 スポーツによる「地域創生」
2 交流人口(県外からの観光客)の増加による地域全体の活性化
3 野球以外でも多くの人が楽しめる空間の創出



5 県スポーツ施設の老朽化対策

質問 藤崎台県営野球場等の老朽化したスポーツ施設の新設を望む声を聞く一方で、新設には膨大な予算を要するため懐疑的な意見もある。新設する場合、安定的な集客や興業収入の確保といった将来を見据え「稼げる箱」という視点についても議論することが重要。自民党県連では、この課題解決に向け「スポーツ施設の在り方を検討する委員会」を設立することになった。そこで、1 既存スポーツ施設の老朽化対策、2 仮に新たな施設を整備する場合の基本的な考えを教育長に尋ねる。

答弁(教育長) 1 令和2年度までに策定予定の個別施設計画に基づき、計画的な維持補修等を行い施設の長寿命化を図るとともに財政負担の平準化に努める。2 各既存施設の現状や課題の整理を踏まえ、その必要性の検討にあわせ、建設費用やランニングコスト、財源確保等の把握を行う必要があり、民間の資金やノウハウの活用についても検討が必要。さまざまな意見を聞きながら、これらの論点について精度を高め優先順位等についても多角的に検討を行っていくことが必要と考える。

<南部> 私は選挙の時に「新球場建設」「スポーツ特区構想」を公約に掲げた。今、国レベルでは、その地方の特性に合わせた、スポーツツーリズムやスポーツコミッションなど、「スポーツを利用した地域活性化」を推進している。さらに県内においても、ラグビーW杯やハンドボール世界選手権など、スポーツに対する機運が高まっている今、今回の調査で施設を維持するという視点だけでなく、県全体の経済的効果、活用方法等、将来性を含めての調査を進めて頂きたい。スポーツ施設を未来の財産として残していく為に、場所等含め「最善の策は何なのか」議論を深めていきたい。また、我々自民党としても「スポーツ施設の在り方を検討する委員会」を立ち上げ、党内の議論を進めていく。執行部と共に様々な角度から、今後のスポーツ施設の在り方について検討していく。

6 デジタル化の施策

質問(前略) 本県における情報技術を生かした県民の利便性向上の取り組みや地域課題の解決に導くデジタル化の施策について企画振興部長に尋ねる。

答弁(企画振興部長) 県ではスマート農林水産業の取り組みを積極的に進めている。また、AIが、子育ての質問に回答するシステムの実用化を図ったところ。さらに、本年3月に策定した熊本県官民データ活用推進計画に基づき、県保有のデータを公開するオープンデータや行政手続きのオンライン化、基盤整備などに取り組む。

<南部> 財政の乏しい地方はデジタル化が遅れ、さらに格差が広がる恐れもある。しかし、遠隔医療やドローンでの荷物の配達・集荷、スマート家電などは、高齢者の多い地方にこそニーズが高いものだと思う。それらを率先して進めることができるIT人材の育成を含め各機関と連携し、県としてのバックアップを願う。また利便性向上については期間を決めて、手続きのオンライン化、オープンデータの整備などスピード感をもって進めて頂きたい。

藤崎台県営野球場とエコスタジアム新潟(新潟県立球場)の比較

Table with 3 columns: 項目, エコスタジアム新潟, 藤崎台県営野球場. Rows include 収容人数, 内野席/外野席, グラウンド, 屋内練習場, 駐車場.



Kumamoto Grand design 2050 熊本ランドデザイン2050の概要(pdf)は右記のQRコードからダウンロードできます。

ランドデザイン 県の重要な役割について(熊本空港アクセス鉄道)

空港アクセス鉄道とは 昨年末に知事より、熊本駅と空港を結ぶ新たな輸送機関として「空港アクセス鉄道」を建設すると発表がありました。三里木駅から運動公園を通過して空港に向かうルートで、県の目玉事業として注目が集まっています。

Table with 5 columns: 検討した交通システム, 定時性, 速達性, 大量輸送性, 事業費. Rows include 鉄道延伸, モノレール新設, 市電延伸.

